

酒米試験地の設立と初期品種系統「兵庫雄町」, 「山雄67号」および「愛山」の育成経過

池上 勝*

Establishment of "Sake Rice Branch" and Breeding Processes of Sake-Brewing Rice Varieties "Hyogo-omachi", "Yamayu No.67" and "Aiyama"

Masaru Ikegami

キーワード：水稲，酒米品種，兵庫雄町，山雄67号，愛山，育成経過，兵庫県，酒米試験地

緒 言

兵庫県立農事試験場酒造米試験地は、1928年、加東郡福田村沢部に設立され、酒米の品種比較や栽培法に関する試験研究を開始した。当初、酒造米試験地では品種育成は行わず、酒米も含めた水稲育種は、明石市にあった本場の種藝部と新品種育成係が担当していた。その後、1935年からは酒造米試験地においても品種育成が開始された。酒造米試験地は、1945年の敗戦後に、加東西部技術指導農場や福田原種圃に姿を変え、一時酒米から担当

業務が離れたが、1952年に県立農業試験場酒米試験地となり、酒米を担当する試験研究機関として再出発した。酒造米試験地の変動期に当たるこの時期に育成された品種や有望系統が「兵庫雄町」、「山雄67号」および「愛山」である。

酒造米試験地設立時の記録や設立当初の育種試験および育成品種に関する資料はこれまでに整理されたものがない。そこで酒造米試験地に関わる記録の保存と今後の酒米育種の参考資料にするため、酒米試験地で保管している野帳や資料を整理した。

酒造米試験地設立時の様子は、兵庫県農会通信や初代主任藤川楯次が作成した資料により概要を明らかにする

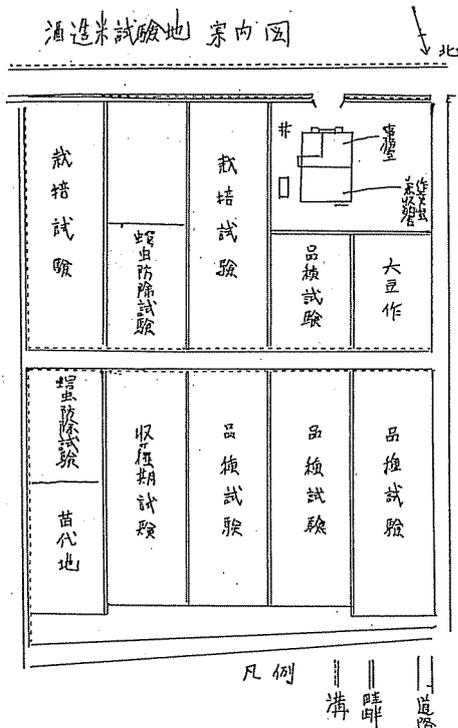


図1 開設当時の酒造米試験地圃場図

表1 酒造米試験地の年譜

西暦	月	日	事項
1927	2月	15日	加東郡農会「酒造米試験分場設置陳情及建議」案可決
1928	6月	22日	藤川楯次、兵庫県農林技手に任命
1928	7月	3日	県立農事試験場・酒造米試験地事業開始
1934			建物、圃場拡充
1946	1月		加東西部技術指導農場となる
1949	4月		県立農事試験場・福田原種圃となる
1952	8月		県立農業試験場・酒米試験地となる

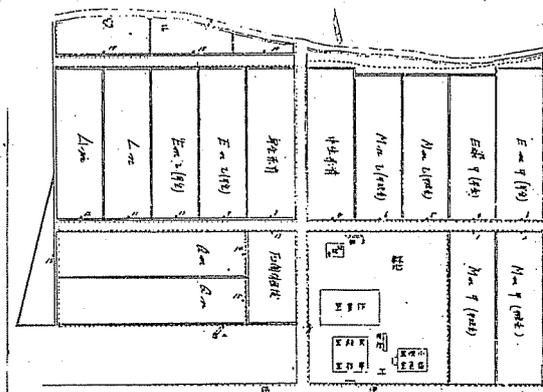


図2 昭和12年(1937)の酒造米試験地圃場図

2005年8月31日受理

* 兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター

ことができた。また、設立初期に育成された「兵庫雄町」、
「山雄67号」および「愛山」については、奨励品種改廃
協議会資料や1943年度までの育成野帳により、「兵庫雄
町」は雑種第8世代(F₈)「山雄67号」は第7世代(F₇)、
「愛山」は第2世代(F₂)までの育成経過を明らかにする
ことができた。ただし、加東西部技術指導農場と福田原
種圃の資料は少なく、育成後期の様子は不明であった。

なお、本文中の個人名の敬称は省略した。また、耕種
概要や品種特性の尺貫法表記のデータは、SI単位に換算
して表記した。

1 酒造米試験地の育種事業

(1) 酒造米試験地の設立

表1に酒造米試験地の設立から1952年までの年譜を示
す。酒造米試験地の設立当時の概要は、藤川禎次が作成
した手書きの「新設記念・本県の酒造米」²⁾や「農業試
験場60年史」³⁾に詳しい。これらによると事業開始は
1928年7月3日となっている。職員は技手1名、雇1名
の計2名である。建物敷地は150坪で、事務室は平屋建
て10坪、収納舎兼作業室は中二階建て10坪と井戸および
便所が平屋建て1坪5号である。圃場は図1のとおり5
反1畝19歩で10筆であった。

酒造米試験地の設立は、兵庫県農会通信第122号⁴⁾や地
元「澤辺誌」⁵⁾に記載があり、加東郡農会をはじめ当時
の地元関係者の熱心な働きかけによる。1927年2月15日
に社町公会堂で開催された加東郡農会の農事懇談会で
「酒造米試験分場設置陳情及建議」案が満場一致で可決
され、地元村長や区長らの働きかけが活発となり、設立
に至っている。当時加東郡農会委員であった藤川禎次が
報告している農会通信の記事には、「酒造米の改良増殖
は東播の酒造米生産に従事する農家にとって最も重要な
事柄である。然るにこれが試験研究のなされたもので直
接農家に参考になるものが少ないのを遺憾とし、前期農
事懇談会に於いて酒造米の試験及原種圃を設けるために
東播の酒造米産地に農事試験場分場を設置せられたき旨
を其筋に陳情すること」とある。酒造米試験地は文字通
り、農家に直接役立つ酒米の試験研究を行うことを目的
に設立された。

(2) 育種事業

1953年9月に発行された「農業試験場60年史」³⁾の酒米
試験地の欄には、品種改良試験を拡充するためとして、
1934年に職員、建物、圃場が拡充されている。敷地は1
反5畝歩、圃場は8反9畝11歩になり、新たに作業室35
坪、堆肥舎6坪、宿直兼小使室11坪が建設された。図2
は1937年の酒造米試験地の施設と圃場図である。

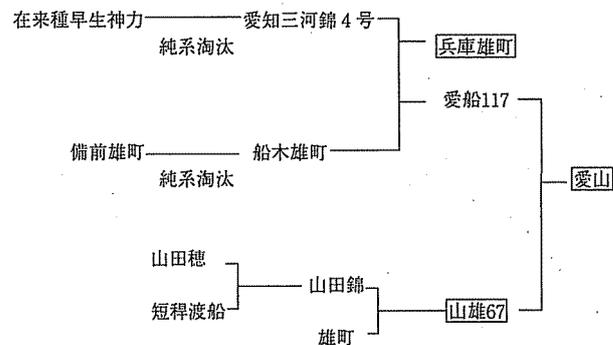
開設当初の酒造米試験地における品種改良試験は、本
場で育成された系統の生産力検定試験のみで、「山田錦」
についても生産力検定試験を担当している。施設圃場の
拡充に伴い、1935年からは本場が育成した系統の雑種第
二代の個体養成と選抜を担当し、育種事業を開始した⁹⁾。
さらに1937年からは酒造米試験地でも交配を始め、この
年は14組合せの交配を行っている¹⁰⁾。

2 「兵庫雄町」の育成経過と品種特性

(1) 育成経過

図3に「兵庫雄町」の系譜を、図4に育成経過を示す。
「兵庫雄町」は1935年に明石市にあった本場の新品種育
成係担当者によって、「愛知三河錦4号」を種子親に、「船
木雄町」を花粉親に用いて交配された。担当者は地方農
林技師であった三宅瑞穂や農林技手の佐々木六太郎、海
野佐一と思われる。奨励品種改廃協議会資料⁷⁾など当時の
資料⁶⁾によると、「兵庫雄町」の交配場所は酒造米試験地
とされてきたが、藤川禎次が作成した酒造米試験地の昭
和14年度水稻試験設計書には、36組合せの交配に関する
記載があり、新品種育成係交配年度と酒米試験地交配年
度に区別されている。「兵庫雄町」の組合せは、新品種育
成係が交配した印が付けられている。また、酒造米試験
地の昭和12年度水稻成績野帳に雑種第二代の出穂期が記
載されているが、この組合せに「兵10交47」と記されて
いる。これは本場の交配番号で1935年に交配した47番目
の組合せを表している。奨励品種改廃協議会の資料では
酒造米試験地が交配場所となっているが、昭和14年度水
稻試験設計書の記載では本場の新品種育成係の交配と
なっている。以上の点から、「兵庫雄町」の交配場所は
本場の新品種育成係と考えられる。

交配母本の「愛知三河錦4号」は、「愛知の稻」¹¹⁾によ
ると愛知県で1930年に育成された品種で、1941年まで
「三河錦」として奨励品種に採用されていた。「三河錦」
の原品種は、愛知県の篤農家加藤石松が1894年に備前か



注) 上段が種子親, 下段が花粉親

図3 「兵庫雄町」、「山雄67」、「愛山」の系譜

ら導入した「三力」から選抜して育成した短稈の中生種である。その後、1898年に愛知県内の安城地域に種子を分譲する際に「早生神力」と命名した。愛知県農事試験場では、「早生神力」から純系淘汰法で「愛知三河錦3号」を1920年に育成し、さらに品質向上と多げつ性を目標に純系淘汰を行い、育成したのが「愛知三河錦4号」である。「兵庫雄町」の交配母本に用いた理由は、良質でいもち病に強いと考えられる。種子親に用いた「船木雄

町」は、1928年に広島県船木村の西本武雄が備前雄町から純系分離した品種である¹²⁾。

1936年に本場でF₁個体16個体が養成され、1937年のF₂世代から酒造米試験地に育成が移された。図4のとおり、1937年から1943年までは酒造米試験地の育種野帳が残っており、栽培系統数など詳しい育成経過がたどれるが、1944年以降は育種野帳が残っていないため詳しい育成経過は不明である。1940年F₃世代で「愛船206」の系統名

表2 「兵庫雄町」,「山雄67号」および「愛山」育成担当者

担当当初の職名	氏名	担当期間	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952			
酒造米試験地																							
農林技手	藤川 禎次	1928年6月 1944年4月	~	—————																			
雇員	中野 良雄	1934年10月 1936年7月	~	—————																			
雇員	田村 喜豊	1935年10月 1936年1月	~	—————																			
雇員	立花 亮	1936年4月 1938年3月	~	—————																			
雇員	村上 徳二	1936年4月 1936年12月	~	—————																			
雇員	吉田 聡一郎	1936年11月 1936年11月	~	—————																			
雇員	小野 哲二郎	1937年2月 不明	~	—————																			
加東西部技術指導農場																							
不明	青木 一二三	1944年4月 1949年3月	~	—————																			
不明	中田 久一	1944年4月 1949年3月	~	—————																			
不明	井村 重明	1946年1月 1949年3月	~	—————																			
不明	小紫 進	1946年1月 1949年3月	~	—————																			
不明	山田 智賀司	1947年4月 1949年3月	~	—————																			
不明	蔭山 浩	1947年4月 1949年3月	~	—————																			
福田原種圃・酒米試験地																							
技師	北井 勇	1949年8月 1961年3月	~	—————																			
雇員	河合 則哉	1952年3月 1956年3月	~	—————																			
本場・新品種育成																							
地方農林技師	三宅 瑞穂	1927年6月 1936年5月	~	—————																			
農林技手	佐々木 六太郎	1929年8月 1938年8月	~	—————																			
農林技手	海野 佐一	1933年3月 1947年3月	~	—————																			
地方農林技師	瀬古 秀生	1936年6月 1942年8月	~	—————																			

注) 加東西部技術指導農場の担当者の担当期間は聞き取りによる推定である。

表3 生産力検定試験の耕種概要

試験年次 (西暦)	播種期 (月日)	播種量 (L/m ²)	移植期 (月日)	栽植密度		植付 本数 (本/株)	施肥量 (N成分 kg/a)		
				条間 (cm)	株間 (cm)		基肥 (時期) (kg)	追肥 (時期) (kg)	追肥 (時期) (kg)
1949	5/9	0.164	6/22	25.8	21.2	3	0.23 (6/17)	0.19 (7/20)	0.15 (8/11)
1950	5/13	0.164	6/21	24.2	22.7	4	0.23 (6/16)	0.23 (7/14)	0.11 (8/11)
1951	5/7	0.164	6/22	24.2	22.7	3	0.23 (6/16)	0.23 (7/14)	0.11 (8/11)

注) 1941年から1946年までの耕種概要は不明。

が付けられ、生産力検定試験に供試された。1941年から、当時奥吉川村金会（現在の吉川町金会）に設置された酒造米試験地の現地委託試験に供試された。担当者は岩崎義昌である。F₂世代からは4系統群で維持され、F₈世代は各系統群毎に生産力検定に供試されている。そのうち「愛船206-169」が有望視され、育成野帳に丸印が記入されている。なお、図4に示す系統「愛船117」は、後述する「愛山」の種子親として用いた系統である。

奨励品種改廃協議会資料には生産力検定試験の成績がまとめられているが、その供試年度は1941年から1946年の6年間と1949年、1950年の2年間の合計8年間である。表1のとおり酒造米試験地は終戦前後で組織の改編が行われ、生産力検定の供試年の内、1946年の成績は、加東

西部技術指導農場として行い、また、1949年、1950年の2年間の試験は福田原種圃として行われたものである。

「愛船206号」は、1951年4月6日に開催された第2回県米麦品種改良委員会で奨励品種へ採用され、4月27日付けの兵庫県報第2807号³⁾で公表された。当初は「辨慶」に替えて採用する予定であったが、「辨慶」は廃止されずに継続となった。その後、1957年までの7年間栽培され、1958年5月4日付けの兵庫県公報3393号⁴⁾で、奨励品種としては廃止された。

「兵庫雄町」の品種名は奨励品種採用時に命名したものであるが、「雄町」との品種名は交配母本の「船木雄町」に由来すると考えられる。

「兵庫雄町」の育成担当者名は表2のとおりと考えて

表4 「兵庫雄町」,「山雄67号」および「愛山11号」の形態および玄米特性

品種名	稈の		芒の		ふ色	芒および ふ先色	一穂穂数 個	脱粒 難易	粒形	粒大	千粒重 (g)	心白多少	腹白多少
	細太	剛柔	多少	長短									
兵庫雄町	太	剛	無	—	白	白	130.5	易	長	大	28.2	多	微
辨慶	太	剛	無	—	白	白	132.6	易	長	大	26.8	多	少
山雄67号	中	中	極稀	極短	白	白	91.9	易	中	中	24.5	少	微
山田錦	中	中	無	—	白	白	84.5	易	長	大	28.0	多	微
愛山11号	中	中	無	—	白	白	88.4	易	長	大	30.0	多	微

注) 1950年の普通肥料栽培区の成績による。

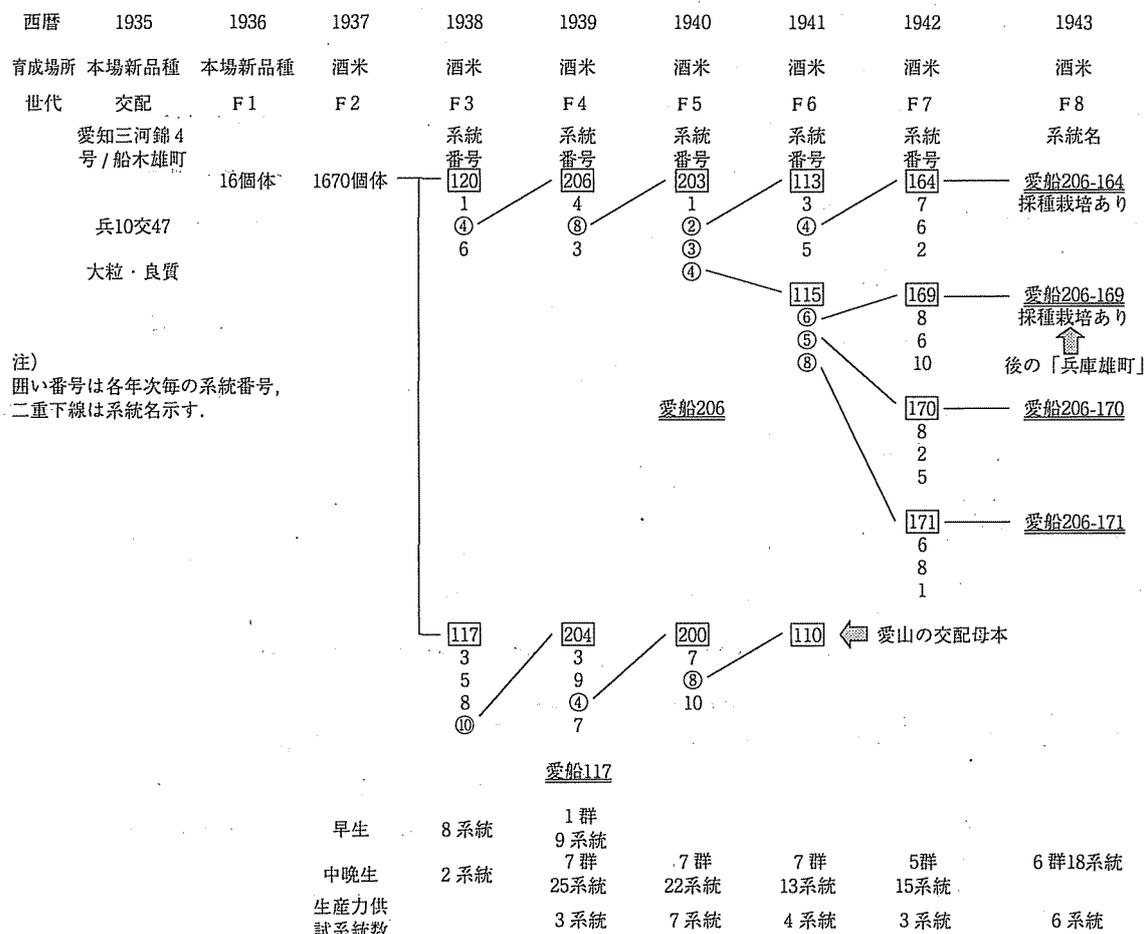


図4 「兵庫雄町」(愛船206)と「愛船117」の育成経過

られる。酒造米試験地と本場新品種育成の担当者は農事試験場の業務功呈を参考にしたが、一部不明な点がある。また、加東西部技術指導農場時代の職員の資料は一切残っていない。1947年に指導農場の職員であった山田智賀司からの聞き取りによると、藤川禎次が退職した後、しばらくしてから中崎久夫技師が酒米の担当で赴任し、加東西部指導農場時代も青木一二三ら指導農場職員と事務所に同席し、酒米の試験研究業務を担当していた。また、育成系統の保存維持は指導農場の職員が担当していたとのことである。育成の最終段階は福田原種圃の北井勇らが担当したが、育成担当者や担当期間は、不明確な

点が多く、今後のさらに詳しい調査が必要である。

(2) 品種特性

表4, 5, 6および図6, 7に「兵庫雄町」の形態特性, 生育特性, 収量および品質を示す。成績は1941年～1946年と1949年, 1950年の2年間の合計8年間の生産力検定試験の結果である。耕種概要は表3に示すが, 1941年～1946年までの期間は資料がなく, 不明である。

「兵庫雄町」は「辨慶」と出穂, 成熟期が同熟で, 「山田錦」よりは1日遅い晩生種である。長稈で穂長がやや長く穂数が少ない穂重型である。1穂初数は多い。稈は太く剛いため, 長稈ではあるが倒伏の発生は, 「山田錦」

表5 「兵庫雄町」,「山雄67号」および「愛山11号」の生育特性

品種名	試験年次 (西暦)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏の多少		メイ虫害	いもち	風害	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)
				普通肥	多肥						
兵庫雄町 (愛船206号)	1941	9/9	10/29	無	少		少		91	21.3	13
	1942	9/4	10/26	少	無		無		103	21.3	13
	1943	9/5	10/28	無	少				124	21.6	13
	1944	9/4	10/28	中					109	19.5	14
	1945	9/3	10/29	無					91	21.9	13
	1946	9/6	10/28	無					93	21.4	13
	1947	9/7	10/28						101	19.6	13
	1948	9/6	10/28	無		極少		少	97	21.3	13
	平均	9/6	10/28						101	21.0	13.1
比較 辨慶	1941	9/9	10/29	少(中)	中(多)		少		97	20.7	12
	1942	9/6	10/27	少(中)	少(中)		無		109	19.0	12
	1943	9/5	10/28	少	中				128	19.9	12
	1944	9/4	10/30	中					111	17.9	14
	1945	9/3	10/28	少					94	19.8	12
	1946	9/5	10/29	無					100	18.7	14
	1947	9/6	10/28						106	20.8	11.7
	1948	9/6	10/28	無		少		少	106	19.4	12.6
	平均	9/6	10/28						106	19.5	12.5
山雄67号	1941	9/6	10/30	無	無		少		87	18.8	17
	1942	9/5	10/27	少	少		無		102	18.9	19
	1943	9/5	10/28	少	少(中)				117	19.3	17
	1944	9/5	10/27	少	少				104	17.7	20
	1945	9/3	10/27	中					86	19.1	17
	1946	9/6	10/27	無					92	19.0	18
	1947	8/31	10/10						93	19.4	16.8
	1948	9/2	10/21	無		極少		少	91.2	18.7	18.3
	平均	9/3	10/24						96.5	18.8	17.8
比較 山田錦	1941	9/8	10/28	少	少		少		88	19.3	18
	1942	9/4	10/26	少	少		無		102	18.2	19
	1943	9/4	10/28	少					118	19.1	17
	1944	9/4	10/29	無	少				105	17.8	17
	1945	9/3	10/28	無					87	18.8	16
	1946	9/4	10/28	無					91	18.1	17
	1947	9/4	10/26						101	19.7	16.6
	1948	9/5	10/25	無		少		極少	96.2	19.5	15.7
	平均	9/5	10/27						98	18.8	17.0
愛山11号	1947	9/5	10/21						95	19.5	16
	1948	9/6	10/27	無		無少			97	18.6	17
	1949	9/4	11/1	20%		極少	極少		89	19.5	15.8
	平均	9/5	10/27						94	19.2	16.3
比較 山田錦	1947	9/4	10/26						97	19.5	16
	1948	9/6	10/25	無		無微			98	19.9	17.3
	1949	9/4	10/30	23%		極少	極少		93	18.7	16.1
	平均	9/5	10/27						96	19.4	16.5

注) 普通肥料区の成績。1946年の山雄67号のみ1区制でその他は2区制。

よりやや少ない。芒の発生はなく、ふ色、芒およびふ先色は白である。脱粒性は易である。粒形はやや長粒で、千粒重は28.2gと「山田錦」と同等かやや大きい。心白の発現は多く、腹白は少ない。品質は「上下」と「辨慶」、
「山田錦」より優れる。収量性も「辨慶」、「山田錦」より高い。吉川町金会の現地委託試験の結果は表7のとおりで、場内生産力検定試験の結果と同様の傾向で収量性、品質が高い。

(3) 「兵庫雄町」の生産

作付け面積は、表8に示すように、1954年に203haの

作付けが最大で、おもな産地は多可郡や加東郡であるが、佐用郡や但馬地域でも栽培された。

3 「山雄67号」の育成経過と品種特性

(1) 育成経過

図3に「山雄67号」の系譜を、図5に育成経過を示す。なお、「山雄」の読み方については、当時の系統名は交配母本の両親の頭文字を付け、訓読することが慣例であったようで、「愛船」、「山愛」はそれぞれ、「あいふね」、「やまあい」と呼ばれていたことから、「山雄」も「やまお」と呼ぶのがよいと考えられ、前出の山田智賀司による

表6 「兵庫雄町」、「山雄67号」および「愛山11号」の収量、品質

品種名	試験年次 (西暦)	普通肥料栽培区					品質	2.5割増肥料栽培区				
		玄米重量 (kg/a)	同左比率 (%)	玄米容量 (L/a)	同左比率 (%)	玄米1升重量 (g/L)		玄米重量 (kg/a)	同左比率 (%)	玄米容量 (L/a)	同左比率 (%)	玄米1升重量 (g/L)
兵庫雄町 (愛船206号)	1941	34.9	107	41.7	106	838	中上	35.7	114	42.7	114	834
	1942	52.4	109	61.1	108	859	上中	52.6	111	61.5	113	854
	1943	47.4	106	55.8	105	850	上中	49.6	110	58.6	108	846
	1944	39.5	109	48.3	109	819		42.4	111	51.5	111	825
	1945	33.1	104	40.9	104	811						
	1946	50.3	101	59.9	99	840						
	1947	50.6	105	62.5	105	809	上下					
	1948	54.0	103	67.5	103	800	中中					
	平均	45.3	106	54.7	105	827	上下	45.1	112	53.6	112	840
比較 辨慶	1941	32.5	100	39.3	100	836	中下	31.2	100	37.7	100	829
	1942	48.1	100	56.4	100	854	上下	46.6	100	54.6	100	854
	1943	44.7	100	52.9	100	844	中中	45.2	100	54.2	100	844
	1944	36.1	100	44.3	100	815		38.2	100	46.5	100	823
	1945	31.9	100	39.3	100	813						
	1946	49.9	100	60.2	100	829						
	1947	47.9	100	59.6	100	805	上下					
	1948	52.6	100	65.2	100	805	中中					
	平均	43.0	100	52.1	100	825	中中	40.3	100	48.2	100	838
山雄67号	1941	35.8	109	42.7	109	838	中中	36.0	105	41.8	105	834
	1942	51.9	108	60.8	107	856	上中	50.1	104	58.6	104	856
	1943	47.4	109	56.0	108	846	上中	48.0	106	57.3	107	844
	1944	42.8	111	52.3	111	819		44.4	116	54.1	116	823
	1945	35.9	108	44.1	106	817						
	1946	49.2	106	59.2	107	832						
	1947	46.6	98	57.1	97	817	上中					
	1948	49.2	91	60.6	90	811	中上					
	平均	44.8	105	54.1	104	829	上下	44.4	108	52.9	108	840
比較 山田錦	1941	32.7	100	39.1	100	836	中中	33.2	100	39.8	100	834
	1942	48.1	100	56.6	100	850	上中	48.0	100	56.4	100	852
	1943	42.7	100	50.7	100	844	上下					
	1944	38.4	100	47.1	100	817		38.4	100	46.6	100	823
	1945	33.3	100	41.6	100	802						
	1946	46.5	100	55.3	100	842						
	1947	47.3	100	59.0	100	802	上下					
	1948	54.2	100	67.4	100	805	中中					
	平均	43.0	100	52.2	100	825	中上	41.2	100	49.1	100	838
愛山11号	1947	46.3	96	60.0	100	811	上中					
	1948	58.0	105	70.8	103	821	中下					
	1949	45.8	114	55.2	113	832	下下					
	平均	50.1	105	62.0	105	821	中下					
比較 山田錦	1947	48.4	100	60.2	100	805	上下					
	1948	55.0	100	68.6	100	802	中中					
	1949	40.3	100	48.9	100	825	中上					
	平均	47.9	100	59.2	100	811	中上					

注) 普通肥料区の成績。1946年の山雄67号のみ1区制でその他は2区制。

表7 現地委託試験地における「兵庫雄町」,「山雄67号」の生育, 収量, 品質

品種名	試験年次 (西暦)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	倒伏	いもち病	品質	玄米重量 (kg/a)	同左比率 (%)	玄米容量 (L/a)	同左比率 (%)	玄米1升重量 (g/L)
兵庫雄町 (愛船206号)	1941	9/6	10/26	93	22.7	12.0	無	無	上下	44.4	109	52.4	108	848
	1942	9/6	10/24	106	23.0	12.0	無	無	上中	55.7	100	66.9	101	832
	1943	9/1	10/25	133	23.7	14.0	少	無	上中	52.2	133	62.2	131	838
	平均	9/4	10/25	111	23.1	12.7			上中~上下	50.7	114	60.6	113	839
比較 辨慶	1941	9/5	10/26	95	21.1	11.0	少	無	上下	40.8	100	48.6	100	840
	1942	9/5	10/24	113	20.3	13.0	無	無	上中	55.5	100	66.6	100	834
	1943	9/1	10/25	132	21.1	13.0	中	無	中中	39.3	100	47.5	100	829
	平均	9/4	10/25	113	20.8	12.3			上下~中上	45.2	100	54.2	100	834
山雄67号	1941	9/6	10/27	91	21.4	14.0	無	無	上下	45.8	109	54.2	108	844
	1942	9/7	10/25	105	20.7	16.0	無	無	上中	56.3	109	66.9	109	842
	1943	9/1	10/25	129	21.8	16.0	少中	無	中上	44.6	103	53.8	103	829
	平均	9/5	10/26	108	21.3	15.0			上下	48.9	108	58.4	107	838
比較 山田錦	1941	9/4	10/25	90	20.0	14.0	無	無	上中	42.1	100	50.0	100	842
	1942	9/4	10/23	104	19.6	17.0	無	無	上中	51.7	100	61.5	100	840
	1943	8/31	10/24	126	21.2	14.0	無	無	中上	43.5	100	52.4	100	832
	平均	9/2	10/24	107	20.3	15.0			上中~上下	45.8	100	54.6	100	838

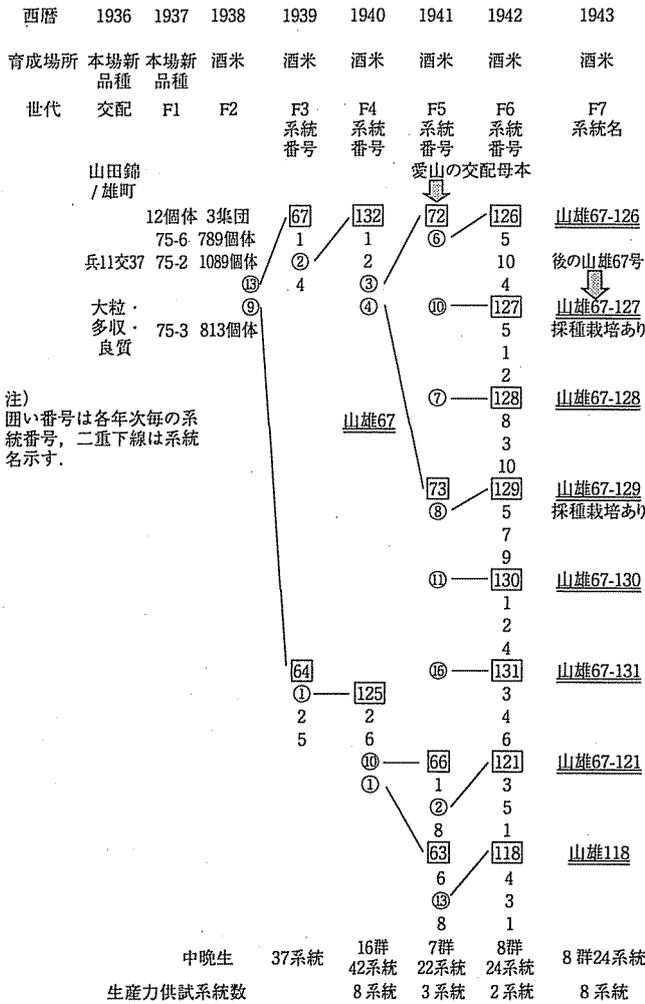


図5 「山雄67号」の育成経過

粉親に用いて交配された。交配場所は、奨励品種改廃協議会の資料では酒造米試験地となっているが、昭和14年度水稻試験設計書の記載では本場の新品種育成係の交配となっている。交配番号は「兵11交37」である。F₁世代の個体養成は1937年に本場で行われ、12個体栽培されている。1938年のF₂世代から酒造米試験地に育成が移された。図5のとおり、「兵庫雄町」と同様に1943年までは酒造米試験地の育種野帳が残っているが、1944年以降は詳しい育成経過は不明である。

1940年F₄世代で「山雄67」の系統名が付けられ、生産力検定試験に供試された。初期世代から多くの系統が選抜され、生産力検定試験に供試されている。1941年からは奥吉川村会場の現地委託試験にも供試された。1941年F₅世代の系統番号72は、後述する「愛山」の花粉親として用いた系統である。

奨励品種改廃協議会資料にまとめられている生産力検定試験の成績は、「兵庫雄町」と同様に、1941年~1946年と1949年、1950年の2年間の合計8年間である。「山雄67号」も「兵庫雄町」や「山愛183号」と同様に、1951年4月6日に開催された第2回県米麦品種改良委員会で奨励品種への採用が検討されたが、奨励品種の採用は見送られ、改めて品種名は付けられなかった。

「山雄67号」の育成担当者は表2のとおりと考えている。

(2) 品種特性

表4, 5, 6および図6に「山雄67号」の形態特性, 生育特性, 収量および品質を示す。

「山雄67号」は「山田錦」より出穂, 成熟期がやや早い中晩生種である。稈長, 穂長, 穂数は「山田錦」とほぼ同じの中間型である。1穂穂数はやや少なく。稈の細太, 剛柔程度は中である。倒伏の発生は、「山田錦」よ

と、当時「やまゆう」と呼んでいたとのことである。

「山雄67号」は1936年に明石市にあった本場の新品種育成担当者によって、「山田錦」を種子親に、「雄町」を花

りやや多い。芒は極稀に短芒が発生する。ふ色、芒およびふ先色は白である。脱粒性は易である。粒形は中で、千粒重は24.5gと小さい。心白の発現は少ない。品質は「上下」で「山田錦」よりやや優れ、収量性もやや高い。吉川町金会の現地委託試験の結果は表7のとおりで、場内生産力検定試験の結果と同様の傾向で収量性が高い。

4 「愛山」の育成経過と品種特性

(1) 育成経過

「愛山」は育成野帳によると、1941年に酒造米試験地で「愛船117」を種子親に、「山雄67」を花粉親に用いて交配された。翌1942年にF₁個体が養成された。その後の育成経過は野帳などの資料が残っていないため不明である。1949年～1951年の福田原種圃の生産力検定試験には「愛山11号」の系統名で試験に供試されている。収量性は高いが品質がやや悪いとの理由で、1951年で試験は終了している。

(2) 品種特性

表4, 5, 6および図6, 7に「愛山11号」の形態特性, 生育特性, 収量および品質を示す。

「愛山11号」は出穂, 成熟期が「山田錦」と同熟の晩生種である。稈長, 穂長, 穂数は「山田錦」とほぼ同じの中間型である。1穂粒数は「山田錦」とほぼ同程度である。稈の細太, 剛柔程度は中である。倒伏の発生は、「山田錦」よりやや少ない。芒の発生はなく、ふ色, 芒およびふ先色は白である。脱粒性は易である。粒形はやや長粒で、千粒重は30.0gと「山田錦」より大きい。心白の発現は多く大きい。収量性は高いが品質はやや劣る。

(3) 「愛山」の生産について

「愛山11号」の育成試験は1951年に打ち切られたが、酒米試験地の地元である加東郡社町では一部の農家や集落で栽培が続けられていた。「愛山」の名称は、「愛山11号」の系統名が正式名であるが、現地で「愛山」として略して呼ばれたことによると考えられる。その後、酒米試験地では1968年に品種保存栽培に供試するため、社町山国の農家から苗を譲り受け、場内栽培を行い特性調査をし

ている⁹⁾。そして、現地からの要望もあり純系淘汰を行い、1972年には種子を増殖して現地に提供し、現地では1973年からこの種子を用いての栽培が行われるようになった。その後も隔年で酒米試験地から現地に種子が供給された。さらに1985年からは酒米試験地で原々種栽培が行われ、3年毎にみのり農業協同組合に有償で提供され、表8に示すように、現在も加東郡社町で30ha以上の作付けが行われている。「愛山」は1980年に醸造用玄米の産地品種銘柄に指定されている。

「愛山」の生産地は加東郡社町のみであるが、これまでに生産集落には変動があり、当初は社町山国で栽培が行われていたが、「愛山」の品種特性である胴切れ米（地元では「ひょうたん」と呼称）の発生が問題となり、現在は社町木梨と山口の2集落で栽培されている。「愛山」を使用している酒造メーカーは灘五郷の剣菱酒造の1社で規模の大きい契約栽培が長年にわたり行われている。

謝 辞

酒米試験地元職員の山田賀智司氏、角田和美氏、西田清数氏からは貴重な資料や情報の提供を頂いた。記して厚くお礼申し上げます

引用文献

- (1) 愛知の稲編纂会 (1991): 愛知の稲, 630-631 730-731
- (2) 藤川禎次 (1929): 新設記念・本県の酒造米, 10-11
- (3) 兵庫県 (1951): 兵庫県報第2807号
- (4) 兵庫県 (1956): 兵庫県公報3393号
- (5) 兵庫県立農事試験場 (1953): 農業試験場60年史, 39-40
- (6) 兵庫県立農業試験場 (1952): 新品種解説 酒造米「兵庫雄町」: 農及園27 (8), 922
- (7) 兵庫県立農業試験場福田原種圃 (1951): 水稻奨励品種改廃に関する審議会資料
- (8) 兵庫県立農業試験場酒米試験地 (1968): 昭和43年度育成野帳
- (9) 兵庫県立農事試験場酒造米試験地 (1937): 昭和12年度水稻成績書
- (10) 兵庫県立農事試験場酒造米試験地 (1939): 昭和14年度水稻試験設計書
- (11) 兵庫県農会 (1927): 農会通信第122号, 8-9
- (12) 前重道雅 (1993): 酒米の生産技術改善に関する研究: 広島県農研報56, 5
- (13) 澤辺誌編纂委員会 (1992): 澤辺誌, 70-71

表8 「兵庫雄町」, 「愛山」の作付面積

兵庫雄町		愛山					
年次	面積	年次	面積	年次	面積		
(西暦)	(ha)	(西暦)	(ha)	(西暦)	(ha)		
1951	29.1	1951	31.4	1988	30.0	1997	36.0
1953	182.4	1980	16.0	1989	31.0	1998	37.0
1954	203.4	1981	17.0	1990	31.0	1999	39.0
1955	114.3	1982	31.0	1991	23.0	2000	35.0
1956	104.4	1983	28.0	1992	26.0	2001	36.0
1958	29.3	1984	28.0	1993	30.0	2002	37.0
1961	2.0	1985	28.0	1994	37.0	2003	38.0
1962	1.0	1986	22.0	1995	30.0	2004	37.0
		1987	26.0	1996	33.0		

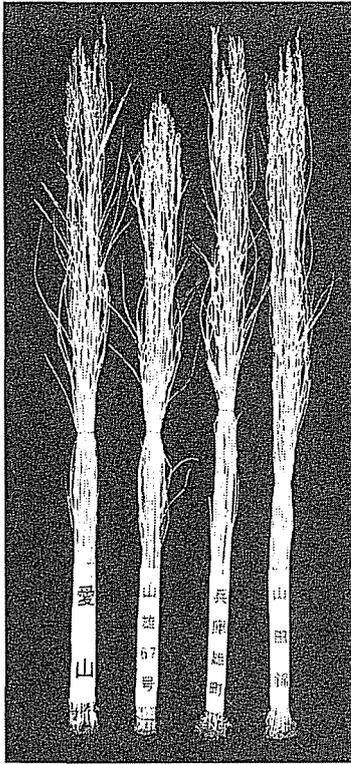


図6 愛山, 山雄67号, 兵庫雄町の株
(左から愛山, 山雄67号, 兵庫雄町 山田錦)

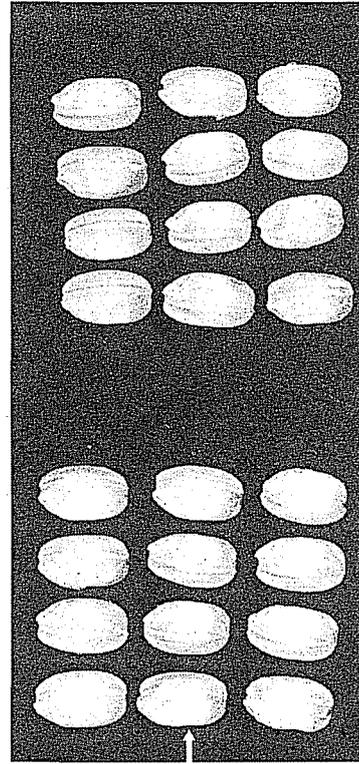


図7 兵庫雄町と愛山の玄米および愛山の胴切れ米
(上段, 兵庫雄町, 下段, 愛山)